

日本アナ連盟の解散と

「自連」の出發

太平洋戦争敗戦の翌年昭和二十一年五月に結成し、以後曲折はあったが、戦前昭和初頭に衰退の極に達したアナキズムを革命思想として今日あらしめたものが日本アナキスト連盟であったことはすでに確言を要しないところである。むしろ一九七〇年前を前にして、為すあるべきことを期待されつつあるとき、わが日本アナキスト連盟は昨秋の大会において突如のごとく解散を宣言した。何故の解散か、何故の後退か、という質問はわれわれに殺到した。無論解散は頽勢の致すところでなく、後退のしるしはどこにもない。われわれは前進と強化と拡大のためにこそ、連盟の解体を踏み切ったのである。おそらく、かかる散前散開こそ、われわれのみが実行出来る戦略戦術であらう。

1

アナキズム運動にとって組織は常にのりこえられるものとしてそこにある。一九四六年の結成以来連盟はアナキズムの旗を高くかかげ種をまき続けてきた。そしてその種は今や全国のそこそこで新しい芽となり成長しつつある。

一九四六年を戦後の第一の開花期とよぶなら現況は正に第二の開花期のはじまりとよぶにあつたとい

開花期においては、埋もれ消えかかっていたアナキズムの火種をほりおこし、それを守りひろめるといふ、いわば思想の保存と量的拡大という観点から運動はすすめられていった。そしてその思想はひとつの原理原則、ひとつのうけつがらるべき伝統としてあり、民衆は連盟の外に啓蒙され宣伝されるであらう対象としてあり、連盟の思想

アナキスト連盟の解散

盟
の
解
散

昨年十一月十三日、十四日に開催された日本アナキスト連盟第十八回全国総会は、十一月二十四日、連盟解散の決議を全員一致で採択した。

日本アナキスト連盟は、敗戦の翌年一九四六年五月十二日、全国アナキストの総力を結集する組織として結成されたが、組織論、運動論をめぐる見解の対立は、ついに連合の方向を生みださず、逆に一九五〇年、分裂を結果した。

一九五二年六月に結成されたアナキスト連盟は、五五年に日本アナキスト連盟と改称、「クロハタ」

「自由連合」の発行を中心に活動を続けてきた。

われわれの運動の主要な目標は、第一に、全国に散在するアナキスト同志とのグループとの連帯を強め、連合を形成していくこと、第二、明治以来の日本アナキズム運動の経験や批判的に継承し、発展させていくこと、この二点であった。しかし、敗戦以来、二十二年を経過した今日、われわれはなお、この目標に到達するところからほど遠い状態にとまっている。

それはなぜか。それはたんにわれわれの努力の不足や力量の欠如というレベルのことではない。組織論そのもの、運動論そのものにかかわる問題である。いや、アナキズムの原理原則といわれたものが、根底から問ひ直されている、というべきであらう。

だとするならば、日本アナキスト連盟の内部改革、強化による前進の道は閉ざされているといわねばならない。多くの先輩同志のなみなならぬ献身によって築かれ、支えられてきた日本アナキスト連盟を、われわれの手によって解散するのは、このためである。

「自由連合」の廃刊

到達するために、われわれは日本アナキスト連盟を解散する。それ

「自由連合」の廃刊

ひつく諸君の提案も取り入れ、甚新されるところも大きいと思ひます。「自由連合」に引きつづき購読して下さいようお願いいたします。なお、その場合前納誌代の現金は新しい新聞の購読料に振り替えます。

自由連合編集部

2

脱皮や飛躍のための提案や問題提起が幾度も起こつてゐたが、なぜ大きな実を結ぶことなく終つたのか。それにはさまざまの理由があるが、そのうちの最大のものは思想上のことは思想上のこととして、運動上のは運動上の方法論のこととして、組織については組織のものち方として論じられかつすけられてきたところであつた。ひつとひつとの問題提起が、アナキズム運動即日本アナキスト連盟の事として、その内部の問題としてしか意識されず、そこから抜け出してそれらを見るという場に達することができぬまま、思想と運動と組織とがつちもつち切りはなしてゐないはずの連なりが、いふはかりに切りはなされ、ひびひびとひびひびの田畑として形成されなかつた。

解散の感想

三甫清

日本アナキスト連盟というイカツイ名称、略してアナ連はすでに老いた私にとつては、心の支えであったし、その成長を祈る心は片時も止んだことはなかった。どんなに小さな存在であつたにしても、いつか鳥がとまる大木になる日がある、と、ただ一つの希望をつないだそのアナ連が解散を決議したのだ。何故か、それは語つてくれる人があるのだ。

平和に、満場一致で決議するに至つた二人一人の心の中に、さまざま感慨があり、希望があつたことは事實だ。生き抜いて新しい朝を迎へようとするからこの脱皮もするのだ。新しく芽生えるもの

と共に呼吸しようとするからこそ衣を脱ぎ去つてやうとするのだ。

十二月十六日、エスペランチストたちの暖かいソリダリテをもつて山鹿君を訪ねたとき、同君は「捲土重來」という言葉があるね」とボツリと言つた。山鹿君の不屈の魂は、あの不自田肉体の牢獄から捲土重來を叫ぶ。不屈の魂が捲土重來を期待している。魂に時間はない、アナリストの魂は永遠の現実に生きている。

何が解散だ。僕たちは今も同じように手をつないでいるではないか。そして建設しようとしているではないか。生み出そうとしているではないか。わわれのこのコ

4

のそれとことならない図式の真以
ごととなり、連盟員は衆衆団体の
中から浮上つて孤立するか、ある
いは衆衆団体の中に完全埋没す
るか、いずれにしても個人と連盟

5

4

もともと日本ナキスト連盟の存在の意味は、日本のさまざまなナキストの自由連合体としてであった。それ故連合体としてそれが存在するには、それ以前にまず多種多様なナキストの運動とその組織体が存在していなければならぬ。ところが一九四六年の連盟去つて、個人個人の日常活動と連合体（連盟）との間に埋めることのできない深淵が発生することとなる。連盟と個人が直接対置される時のこの断絶はさげられないし、連盟の地方協議会という組織も連盟の下部構造であるかぎりはこの疎遠感を埋めることはできないし事実でできなかった。

6

そのように多種多様なアナキズムの運動や結合体は全然存在してゐなかつたとはいへないまでも、それらがきわめて弱小な存在であつたことは事實である。それ故戦後のアナキズム運動は先づ連合体の結成から開始されることとなつた。しかしこのような運動のすゝめ方は、アナキズムの立場からすればむしろ反対の逆立したすゝめ方であつて（その当時の情况からすればやむをえないことであつたにしても）、そのためのゆがみとそこから生ずる停滞はその後がうなすすめ方から連盟の拡大強化をはかつてゐれば、いきおい一方通行の普及宣伝、啓蒙扇動、獲得奪取、取囲みといった既成左翼

しかし連盟のような全国的な連合体の存在が無意味であるとか、必要でないとかいふように考へるならそれはあやまりである。ただ連合体はあくまでも多種多様なアナキストの組織がまず結成され、それらが成長し發展してゆく過程において、それらの諸組織が連合体を必要と感じはじめた時点において、それらの諸組織がみずから自己發展の成果として自己形成してゆくものでなければならぬ。そしてそつう新しい自由連合組織を形成する事はすでに全国的に發生しつつあると私は考えてゐる。

6

7

「売ったつもりで出てきたやつがしい故郷」「コミュニティ」「メガロポリス化」だ。これをシャベリ出したら目が暮れよう。どうしたら一気についてしまえるだろう。「メガロポリス化」というのだろうあの対馬では、もう美味かつたあの香りの高いそばも東京なみのますいものになり、スーパーストアで他国のわかめが売られている」と友は語った。故郷が失われてゆくのだ。

西の浜のあの高い一本松の今に枯れるのだう。コミュニン、そしてコミュニティ、そして革命のイメーじも、アナルシストの頭の中で変化せざるを得ない所まで来ている。メガロポリス化の中のコミュニティ自体も変化している。大きな国家権力の下で、資本主義国も、自称共產主義国もメガロポリ

8

日本アナキスト連盟は解散したとして「自由連合」は連盟の機関紙でない、いわばすべてのアナキストのための機関紙として新しく出発することになった。しかしこの「自由連合」を連盟の事業の一部の継続として、遺産として考えなくてはならない。それは全く新しいなにかものかとして出発しなければならぬ。「継続ではなく、単に「機関紙」の肩書をとる去ったものではなくて、ほんとうにみずからの運動のためにそれを必要とする者がその発行をみずからのこととして参加し、それらの人々たちによつて実際に動かされ、ささえられ、新しく形成されてゆくものでなければならぬ。いいかえれば、旧連盟が計画し、その他の人々たちがそれをひらかれたものとしてつづけたり、それをたすけるといふかたちではなくて、はじめはそうであつても、できるだけすみやかに、自分自身の運動として意識する人々たちが原稿をかき、あるいは企画し編集し、配布し、拡大してゆく、つまり「自由連合」を他者として「継続」や「下降物」としてみるのではなくて、その実内容のみから変革し形成してゆくものとして意識される必要がある。

7

新しい「自由連合」はすべてのアナキストの「機関紙」として、それらの人たちの当面の、日常の運動の必要に応じた、実際の役に立つてはひびくようなものとならなければ意味はない。そのことはみずからの要求、みずからの運動の状況に応じて、いわば自分自身のためにこそ書き、つくり、くばり、ひろめてゆく新聞にしなければならないということでもある。「自由連合」の発行そのものを自己目的としてはならず、原稿、編集、配布、拡張、といったさまざまな作業にそれぞれ参加し、そのような共同作業を通じて新しい連帯をつよめぬが、そうして新しいアナキストの「あるべき」自由連合の実質が自己形成されてゆくことこそ意味があり、発行のためのそのようなプロセスにこそ運動としての意識があると思はれる。

8

もしも「自由連合」の発行を自己目的化し、普及宣伝啓蒙のための政党の機関紙のように、誰かがつくり誰かに与える形の、一方通行の下降物としての意識したり、あるいは「せん」としたひびかりの、アナキストチックで進歩的なリトルペーパーを志向するなら、旧連盟の発想のパターンをのりこえることはできず、アナキストの諸運動は「自由連合」をおきかへて

東北で連絡紙発刊

日本アナキスト連盟のはたしていた役割の一つに全国各地に散在して、少数もしくは単独で闘っている同志との連帯連絡があった。連盟の解散とはさうも、この面でのマイナスをプラスに転じていくべく、秋田の草壁俊雄氏が東北北海道の同志、有志と呼びかけて消息交換誌の第二号「リベルテ」を発行した。

衆の
革命の結合を！
「アナーキーの創造を！ 反乱」
（山下博康）

6.4ゼネスト

ゼネストは多くの用途をもっている。たとえ戦争反対のゼネストは一九〇九年から二〇二〇年労働者によっておこなわれ、完全成功した。モロッコと戦争をたかしたスペイン政府は戦闘的なスペイン労働者に反撃され、戦争はおこなわれなかった。スペインは、いくつものゼネストや革命行動のありかたといふものを、われわれに教えている。

またロシヤ(一九〇五年憲法制定、ステーション(一九〇九年普選実施)、ドイツ(一九〇一年カッパ一機に反対して)そのほかの国々の労働者も、ゼネストを強力な武器に利用した。二三年イギリスでは、労働者の生活水準切り下げに反対してゼネストがおこなわれた。そのほかは炭坑夫連盟にくわえられた切り下げに反対するストであった。他の労働者は、つぎに苦しいのが自分たちであることを知っている。労働者同盟を組織し、ついに労働運動史上最大ゼネストとなった。ゼネストは八日間わたって、イギリス国家をゆすり、資本主義機構が全くの危機に直面したのである。

このあつた教訓は、限られた目的をもつゼネストであった。サンジカリズムは、これをさらに社会革命を達成する手段とする。つまり国家や資本の支配を一挙に廃絶するという無制限な目的をもち、生活の手段としての労働者の権利をもちた方法として用いるのである。

この社会的ゼネストを、サンジカリズムの批判者は無用なものとしてあきらめ、労働者が国家権力を握らなければならぬというしかけを連中は歴史を無視している。同時に、階級闘争と労働者階級の力についての理解に欠けているのだ。

労働者が過去におかした誤りは、すべての産業がわれらの手中にあるべき、所有者や政治屋に産業を返してしまつたことである。労働者が経験をつみ、かれら自身の力を自覚したとき、かれらは生産と分配の手段を接収する目的を確立し、自衛する革命組織をつくりあげる。そして社会的ゼネストの直接行動をつづけて、その力を発揮したとき、かれらは反対で、どんな力も社会にはなく、社会革命はなしとげられる。もう一人国家はだまされてはいず、ありとあらゆる手段で革命を押しつづけていくことを目的と見なした。革命的ゼネストを、国家の計画的な抵抗から守りぬかねばならぬ。

7.革命を守れ

昔から、腹がへつては戦はるべきぬというが、これはまさに名言である。これは革命を守る第一の鍵である。この鍵は、闘いの拠点となる場所の防衛である。かつて赤色労働組合主義者も同じようなことを考えたが、かれらは労働者組織を共産党の戦略戦術に従って革命に利用するだけであつた。われわれは市民や学生との協同を考えた。われわれは現在のスチューデント・パワーは学園占拠、集団交渉、経営者追放、経営参加とサンジカリズムの戦術を見事に実行してその実をあげた。既成のイデオロギークと、それを信奉する指導者に対する反対は、戦術とともに労働者が学ばねばならぬ態度である。

つめて、かれらがわがかりもしない信じていない労働者のために、きつめて能率的に大量雇用のよう訓練してゐるのだ。われわれは、われわれに与えられる暴力に抵抗する権利を要求する。合法的暴力である裁判でさえ、自衛の訴えは傷害や殺人の告発に対する有効な弁護となるではないか。国家が革命をおしつづけるために、われわれ市民は自衛隊や警察隊をむけたとき、市民はそれに対してみずから守りぬく権利をもたないのだろうか。

社会的ゼネストは社会革命に転じ政府は使用者の利益を守り暴力でかれらの地位をたもとうとする。そこで、フリーリップ・サンジカリズムは革命を主張して、「労働者戦闘隊」の設立を主張している。一九〇一年イタリアで、使用者は労働者をしめ出して賃下げを強行した。労働者は工場を占拠し、みずから運営した。農民サンジカリズムは食糧供給を組織し、運輸サンジカリズムはエネルギーを供給した。革命経済がもたらされたのだ。労働者戦闘隊が組織され、軍需工場から武装をばしめた。みずから守るべきものは守らねばならぬ。

つた。戦後では、かれらの同僚の労働者が自由社会をきずいていた工場での労働者の管理は、戦場での戦闘隊員の平等とつりあつた。目的は自由な非集権的な社会に手段のうちに反映していた。真の革命はこの世から権力構造を根こそぎなくし、人間が人間を支配するところのない社会をつくるのである。

それは地区労働委員会と地方労働委員会と連邦労働委員会と国際労働委員会とつらなるのである。

8.1サンジカリズムの形

サンジカリズムの組織の第一の単位は、職場委員会となる。職場委員会は二つの方向に連合する。職場委員会の組織の第一の単位は、職場委員会となる。職場委員会は二つの方向に連合する。職場委員会の組織の第一の単位は、職場委員会となる。職場委員会は二つの方向に連合する。

職場委員会は二つの方向に連合する。職場委員会の組織の第一の単位は、職場委員会となる。職場委員会は二つの方向に連合する。職場委員会の組織の第一の単位は、職場委員会となる。職場委員会は二つの方向に連合する。

職場委員会の組織の第一の単位は、職場委員会となる。職場委員会は二つの方向に連合する。職場委員会の組織の第一の単位は、職場委員会となる。職場委員会は二つの方向に連合する。

職場委員会の組織の第一の単位は、職場委員会となる。職場委員会は二つの方向に連合する。職場委員会の組織の第一の単位は、職場委員会となる。職場委員会は二つの方向に連合する。

職場委員会の組織の第一の単位は、職場委員会となる。職場委員会は二つの方向に連合する。職場委員会の組織の第一の単位は、職場委員会となる。職場委員会は二つの方向に連合する。

8.2コミューンの組織

サンジカリズムの組織であり、分配センターには、分配労働者のサンジカリズムを直接民衆に伝える。すべての産業はこうして法則で運営され、利潤を求める商人は存在しない。貨幣と利潤制度の廃止、サンジカリズムとコミューンの確立が、自由社会の基礎となるのである。

サンジカリズムの組織であり、分配センターには、分配労働者のサンジカリズムを直接民衆に伝える。すべての産業はこうして法則で運営され、利潤を求める商人は存在しない。貨幣と利潤制度の廃止、サンジカリズムとコミューンの確立が、自由社会の基礎となるのである。

サンジカリズムの組織であり、分配センターには、分配労働者のサンジカリズムを直接民衆に伝える。すべての産業はこうして法則で運営され、利潤を求める商人は存在しない。貨幣と利潤制度の廃止、サンジカリズムとコミューンの確立が、自由社会の基礎となるのである。

サンジカリズムの組織であり、分配センターには、分配労働者のサンジカリズムを直接民衆に伝える。すべての産業はこうして法則で運営され、利潤を求める商人は存在しない。貨幣と利潤制度の廃止、サンジカリズムとコミューンの確立が、自由社会の基礎となるのである。

サンジカリズムの組織であり、分配センターには、分配労働者のサンジカリズムを直接民衆に伝える。すべての産業はこうして法則で運営され、利潤を求める商人は存在しない。貨幣と利潤制度の廃止、サンジカリズムとコミューンの確立が、自由社会の基礎となるのである。

8.3組織図

O.N.T.のアナルコサンジカリズム組織図を別にかかげた。図に「農村居住者」とあるのは必ずしも農民の意味ではなく、「都市のほかに地域に居住している人」のことである。したがって農村居住者評議会の中に、労働組合評議会も含まれている。

O.N.T.のアナルコサンジカリズム組織図を別にかかげた。図に「農村居住者」とあるのは必ずしも農民の意味ではなく、「都市のほかに地域に居住している人」のことである。したがって農村居住者評議会の中に、労働組合評議会も含まれている。

O.N.T.のアナルコサンジカリズム組織図を別にかかげた。図に「農村居住者」とあるのは必ずしも農民の意味ではなく、「都市のほかに地域に居住している人」のことである。したがって農村居住者評議会の中に、労働組合評議会も含まれている。

O.N.T.のアナルコサンジカリズム組織図を別にかかげた。図に「農村居住者」とあるのは必ずしも農民の意味ではなく、「都市のほかに地域に居住している人」のことである。したがって農村居住者評議会の中に、労働組合評議会も含まれている。

O.N.T.のアナルコサンジカリズム組織図を別にかかげた。図に「農村居住者」とあるのは必ずしも農民の意味ではなく、「都市のほかに地域に居住している人」のことである。したがって農村居住者評議会の中に、労働組合評議会も含まれている。

ミヂンコのいのち

泣きながら花をあげた屋敷の野に幾千万の命は生れつつ生れつつ幾千万の水の生虫とほろり命をなやませ「これはそのときわたしの歌です。」

泣きながら花をあげた屋敷の野に幾千万の命は生れつつ生れつつ幾千万の水の生虫とほろり命をなやませ「これはそのときわたしの歌です。」

泣きながら花をあげた屋敷の野に幾千万の命は生れつつ生れつつ幾千万の水の生虫とほろり命をなやませ「これはそのときわたしの歌です。」

泣きながら花をあげた屋敷の野に幾千万の命は生れつつ生れつつ幾千万の水の生虫とほろり命をなやませ「これはそのときわたしの歌です。」

泣きながら花をあげた屋敷の野に幾千万の命は生れつつ生れつつ幾千万の水の生虫とほろり命をなやませ「これはそのときわたしの歌です。」

読者通信

昨午を振り返りますと、日本と世界の国家体制及び社会機構の矛盾が露呈され固体的に墮ちた人々の制度の愚かしさがますます明らかになりました。世界のこの愚かしさに対し、真理を求める私たちの自由連合がより人類の知性に叶ふものであることが明瞭です。

昨午を振り返りますと、日本と世界の国家体制及び社会機構の矛盾が露呈され固体的に墮ちた人々の制度の愚かしさがますます明らかになりました。世界のこの愚かしさに対し、真理を求める私たちの自由連合がより人類の知性に叶ふものであることが明瞭です。

昨午を振り返りますと、日本と世界の国家体制及び社会機構の矛盾が露呈され固体的に墮ちた人々の制度の愚かしさがますます明らかになりました。世界のこの愚かしさに対し、真理を求める私たちの自由連合がより人類の知性に叶ふものであることが明瞭です。

昨午を振り返りますと、日本と世界の国家体制及び社会機構の矛盾が露呈され固体的に墮ちた人々の制度の愚かしさがますます明らかになりました。世界のこの愚かしさに対し、真理を求める私たちの自由連合がより人類の知性に叶ふものであることが明瞭です。

昨午を振り返りますと、日本と世界の国家体制及び社会機構の矛盾が露呈され固体的に墮ちた人々の制度の愚かしさがますます明らかになりました。世界のこの愚かしさに対し、真理を求める私たちの自由連合がより人類の知性に叶ふものであることが明瞭です。

印友会の結成

戦争前、東京印刷連合会(関東出版産業労働組合、東京印刷組合)にあって闘った同志たちを中心とする印友会(東京都墨田区京島二丁目一四・八)が結成され、機関紙「印友」第一号が昨年十一月に刊行された。

戦争前、東京印刷連合会(関東出版産業労働組合、東京印刷組合)にあって闘った同志たちを中心とする印友会(東京都墨田区京島二丁目一四・八)が結成され、機関紙「印友」第一号が昨年十一月に刊行された。

戦争前、東京印刷連合会(関東出版産業労働組合、東京印刷組合)にあって闘った同志たちを中心とする印友会(東京都墨田区京島二丁目一四・八)が結成され、機関紙「印友」第一号が昨年十一月に刊行された。

戦争前、東京印刷連合会(関東出版産業労働組合、東京印刷組合)にあって闘った同志たちを中心とする印友会(東京都墨田区京島二丁目一四・八)が結成され、機関紙「印友」第一号が昨年十一月に刊行された。

戦争前、東京印刷連合会(関東出版産業労働組合、東京印刷組合)にあって闘った同志たちを中心とする印友会(東京都墨田区京島二丁目一四・八)が結成され、機関紙「印友」第一号が昨年十一月に刊行された。



